

第8回 日中韓文化大臣会合

松野大臣ステートメント

2016年8月28日 韓国・済州

このたび、東アジア3か国の文化大臣が集まり、3国間の交流や協力の在り方について議論するこの重要な会合に出席することができ、非常にうれしく思います。議長を務める金鍾徳（キム・ジョンドク）韓国文化体育観光部長官、韓国政府関係者の皆さま、お迎えを頂きましたチェジュ特別自治道の関係者の皆さま、この会議の開催に御尽力いただいた全ての皆さまに厚く御礼申し上げます。また、今回、中国の丁偉（ディン・ウェイ）文化部副部長ともお会いでき、うれしく思います。

この日中韓文化大臣会合は、今回で8回目を迎え、東アジア文化都市事業を始め、三国間の交流のため、様々な成果を着実に上げてきました。今後、更にこの交流を深化させるため、これまでの成果を生かしながら、各国における交流事業の認知度を高めるとともに、より効果的に事業を実施していく工夫が必要だと考えます。

ここでは、私なりに、既存の日中韓事業について、現状を分析した上で、具体的かつ実践的な方策を提案したいと思います。

〔東アジア文化都市〕

最初に、日中韓文化大臣会合の最大の成果ともいえる「東アジア文化都市」についてお話しします。

東アジア文化都市は、御承知のとおり、これまで3年間、3か国で9都市が選定され、それぞれの都市で官民協力のもと、多くの交流事業が行われてきました。三国間では、文化や言語だけではなく、地方自治や予算制度なども異なりますが、それでも、都市レベルでの交流が継続してきたのは、国の違いを超えて交流しようとする市民の力があるからではないでしょうか。

日本の都市の例だけ見ても、毎回、少なくとも100件以上の事業が実施され、その中には著名なアーティストを招いた大規模な国際イベントもあれば、市民参加型の草の根レベルのものもあります。また、分野も、伝統文化から現代芸術まで、音楽、美術、舞台芸術、映像ほか多岐にわたります。

東アジア文化都市は、こうした様々な市民の文化活動による日中韓交流の枠組みであり、一人一人の市民が交流の主人公となる場を提供する役割も担っています。東アジア文化都市事業が、日中韓の市民間の相互理解の増進と健全な社会の発展に果たす役割は計りしれません。

この東アジア文化都市事業を今後どのように発展させていくべきでしょうか。

まず、これまでの東アジア文化都市事業の実績を精査して、成功の秘けつを分析してはどうか。そのために、日中韓三国の東アジア文化都市の市長が一堂に会し、ASEANにおける同様の事業であるASEAN文化都市の市長の参加も得て、これからの東アジアにおける都市による文化交流の在り方について御議論いただく「東アジア文化都市サミット」の開催を提案いたします。この会合については、日中韓文化大臣会合と合わせて行うことが効果的と考えています。

更に3つ目の提案として、2017年の日本の東アジア文化都市に、京都市を推薦します。また、次回大臣会合も、京都市で開催したいと考えております。

次に、日中韓文化大臣会合において提案され、実施されている様々な芸術交流事業についてです。

〔日中韓芸術祭〕

最初に、昨晚開催された「日中韓芸術祭」についてです。三国の芸術家が共同して作り上げる公演を、この文化大臣会合の機会に合わせて行うことは、大変有意義です。明年、我が国がホストする日中韓文化大臣会合においても、引き続き、この芸術祭を開催します。この芸術祭をより充実させるためにも、日程調整を早期に開始したいので両国の協力をお願いします。

〔日中韓青少年文化交流プロジェクト（アニメーション共同制作）〕

そのほかの芸術交流事業として是非ここで御紹介したいのは、「日中韓青少年文化交流プロジェクト」です。この事業はこれからアジアをリードするクリエイターになろうとする日中韓の芸術大学の学生がアニメーション共同制作を通じて交流する場であり、有意義です。この事業の更なる発展に向け、日中韓3か国が連携して応援すべきではないかと考えます。

[東アジア文化交流使]

続いて、2014年の日中韓文化大臣会合で3か国の共同事業として合意されました「東アジア文化交流使」についてです。日本からは、これまで、韓国に3名、中国に5名のアーティストを文化交流使として長期派遣してきました。本年、中国から日本に国家一級ダンサーで、中央戯劇学院（ちゅうおうぎげきがくいん）ダンス劇科指導者の朱晗（シュ・ハン）氏を派遣していただきました。今後、東アジア文化交流使の派遣が日中韓の間で定着していくことを期待しております。

[アーティスト・イン・レジデンス]

もう一つ、芸術交流の文脈で、新たにアーティスト・イン・レジデンス事業における芸術家交流の強化を提案したいと考えます。我が国では2011年より国内のアーティスト・イン・レジデンスに対して支援を行っていますが、今後、国内のレジデンスが韓国、中国からのアーティストをより一層受け入れるようになるよう、事業の見直しを図っていく予定です。同様の取り組みを韓国、中国においても実施いただくことで、芸術家交流の一層の深化を図ってはいかがでしょうか。

[文化遺産保護]

続いて、日中韓の文化協力の柱の一つである文化遺産の保護についてです。

前回の文化大臣会合において、文化遺産の保護や継承の「担い手」の連携を強化するため、日本からは「日中韓文化遺産フォーラム」を開催する旨提案しました。このフォーラムを水中文化遺産をテーマに来年2月に開催できるよう準備を進めているところです。当該分野に携わる専門家等が一堂に会し、それぞれの実情や課題について意見交換を行うことにより、日中韓の協力関係やネットワークの構築に有意義な内容のフォーラムにしたいと考えています。両国からの関係者の御参加をお待ちしております。

〔オリンピック・パラリンピック文化プログラム事業の共同実施〕

さて、日中韓3か国においては、2018年の平昌（ピョンチャン）、2020年の東京、2022年の北京と連続してオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。

私は、今月、リオ・オリンピックの開会式と閉会式に出席したところですが、オリンピックというスポーツイベントが世界中の人を集め、その関心を強力に惹き付けるイベントであることを実感しました。2018年から続く三国におけるスポーツの祭典に併せて文化の祭典を盛大に開催し、世界中の人々に東アジアの文化に関心をもってもらう機会としてはいかがでしょうか。

私からは、2018年からのオリンピック・パラリンピック開催の年に、日中韓芸術祭と同様の文化イベントを開催し、これを文化プログラムとして位置づけていくこと、そしてその具体的な方策について今後、三国で十分に相談していくことを提案します。

なお、日本では、2020年東京オリンピック・パラリンピック等のキックオフ・イベントとして、この10月にスポーツ・文化・ワールド・フォーラムを開催することとしており、既に、韓国、中国にも御案内を差し上げています。御参加をお待ちしております。

〔結び〕

最後に、日中韓文化大臣会合は、2007年の第1回以来、順調に軌道に乗り、三国の国民間の交流機会を創出し、相互理解の増進に貢献してきました。これからの成功の鍵は、いかに創意工夫して、市民の協力の輪を広げ、市民同士の文化交流を促進するかに懸かっていると考えます。今回の文化大臣会合のプロセスを通じて、金鍾徳（キム・ジョンドク）長官、丁偉（ディン・ウェイ）副部長とともに、これから、文化交流事業を着実に前進させ、これにより3か国の国民の相互理解を深め、未来志向の日中韓関係の構築に貢献していきたいと考えています